

平成24年度第3回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成25年3月18日(月) 10:00~12:00
場所 富士見市役所 市長公室
出席者 ○市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	横田	岩田	植松	岡本	荻島
○	○	○	欠	○	○
桐生	清水	田中	前田	森本	山田
○	○	○	欠	欠	○

○事務局

【地域文化振興課】市川課長、原山主事

【生涯学習課】金田課長、佐藤副課長、榎本主事補

1. 開会あいさつ 小塚委員長

2. 議事 議事進行 小塚委員長

(1) 資料確認

事務局より、配布資料の確認を行った。

(2) 報告事項

①生涯学習事業の評価と改善について

委員) 全庁的にさまざまな取り組みが行われており、多岐にわたっている。

委員) しかし、今回実施された「富士見市民意識調査」では、「重要でない」施策として生涯学習推進事業が多く選択されているようだ。活動が市民に伝わっていないのではないか。

委員) むしろ「生涯学習」という概念の理解が不十分なのでは。個人的には、市の努力や、市民力も感じられると思う。暮らしの中で自然に取り組んでいる活動について、それが「生涯学習」とあるという意識をしていない方が多いのかもしれない。

委員) 市民一人ひとりが「生涯学習」という言葉が正しく理解されていない可能性がある。

委員) 生涯学習とは何かを市民に理解していただくことは必要だ。また「富

士見市民意識調査」の結果については、市民の日常の生活に直接係わる施策が選択肢の中にある中で、生涯学習があまり優先されない傾向があるという事情は理解できる。

② 生涯学習ガイドブックの内容について

委員) 定年を迎えて、これから地域活動を始めの方々に手にとってほしい。

委員) せっかく作成するのなら、市民に向けて「生涯学習」という概念を広めることにも活用したい。

委員) たとえば、このガイドブックの冒頭で「生涯学習とは何か」という定義について示してはどうだろう。第二次生涯学習推進基本計画から引用しては。

委員) 公民館などへ行くと、さまざまなチラシや冊子など、大変多くのが掲出されている。ガイドブックの存在が気づかれなくては意味が無いので、ポスターなど、さまざまな手段でアピールした方がよいのではないか。

委員) 社会福祉センターの活動についても、可能ならば掲載して欲しい。また、各公民館や交流センターで開催されている高齢者学級についても、まとめて掲載して欲しい。

委員) NPO についても掲載が必要ではないか。また、見本のコミュニティ大学の案内の文字が小さいので工夫が必要では。

事務局) 検討する。

③ 今後の生涯学習の推進に向けて

委員) 市の事業の中には、市民学芸員など市民ボランティアの協力がなくては実践が難しい事業もある。富士見市の生涯学習の施策体系の中で、その位置づけを明記したほうが良いと思う。

事務局) 生涯学習とは、市民が主体的に取り組むものであるため、行政が主催する事業はあらゆる活動のうち的一部分にすぎない。このたび作成するガイドブックに、市内の活動のすべてを正確に反映することは困難である。公共施設で活動するサークルの情報も紹介するなど、可能なかぎり情報提供を促進したいと考えている。

④ 出前講座の取り組みについて

委員) いじめの問題なども深刻化している。子どもの教育につながる講座はないのか。

事務局) 親の学習会や DVD などを使った学習会など出前講座とは別に個別の

学習会が開催されている。

委員) 出前講座については、人材バンクのパンフレットと一本化できないか。

事務局) 配布や掲出の方法に工夫をして、相互に活用が進むよう配慮する。

委員) 町会を通じた活用促進を期待したい。

委員) 出前講座を、より積極的に PR したり、施設と宣伝したりすることで、より活用が進むのでは。

事務局) 検討する。

(4) その他

次回の会議開催時期について、平成25年5月と決まった。

3. 閉会あいさつ 小塚委員長